

「第10次朝鮮通信使友情ウオーク」のご支援
ありがとうございました

最後の通信使ウオークを4月30日(水)午後、快晴の東京・日比谷公園にゴールして完成することができました。長い間、ご支援くださったみなさんに感謝とお礼を申し上げます。

3月9日にソウル・景福宮を出発して53日目。ソウルー東京2000キロ(うち歩行距離1158キロ)を踏破したのは日本隊9人、韓国隊9人の計18人ですが、500キロ以上を歩く本隊員を含めると日本25人、韓国16人の41人が中核を形成。そして、デリー隊を加えた第10次の全参加者は日韓合わせて3092人となりました。

大阪万博の開催を避けて出発を3週間早めました。そのせいで、韓国の旅は花の季節の田舎の光景とはやや趣を異にしましたが、いつものように旧知の人々が温かく迎えてくれ、日本の初参加者が驚く「豊かな食事」も例年通り。

対馬から始まる日本の旅では各地の対応が一段と熱いものでした。「最後のウオーク」が口コミで伝わったせいか、自治体、民団、ウオーク団体、市民団体などが例年以上に歓迎してくれ、韓国隊員たちも感激していました。

一方、「来訪を楽しみにしていたのにもっと続けて欲しかった」。そんな声もたくさん耳にしました。理解していただきたいのは18年もの歳月で隊員の高齢化が進み、物価の高騰は長期の宿泊を伴うウオークにとって受難の時代を迎えつつあるということ。10回目という数字も区切り、と考えました。

日韓の若者たちがザックを背に「朝鮮通信使の道」を往来する—そんな日が来る夢を諦めたわけではありません。「ギネスに登録申請したら」との忠告もあります。登録が夢の実現の一步になるのなら、取り組んでみるつもりです。

ともあれ18年間、ありがとうございました。その軌跡を数字で表すと—

ソウルー東京 完全踏破者 157人(日本109人 韓国48人=延人数)
デリー隊を含む総参加者 2万2702人
2025年5月吉日

21世紀の朝鮮通信使友情ウオークの会
会長 遠藤靖夫 幹事一同

「21世紀の朝鮮通信使 日韓友情ウオーク」の記録

(ソウルー東京 2000 キロ=陸路 1200 キロ、海路ほか 800 キロ)

第1次朝鮮通信使ウオーク 2007年4月～5月

第2次朝鮮通信使ウオーク 09年4月～5月

第3次朝鮮通信使ウオーク 11年4月
※3月の東日本大震災のため、ソウルー釜山のみを日韓で踏破

第4次朝鮮通信使ウオーク 13年4月～5月

第5次朝鮮通信使ウオーク 15年4月～5月

第6次朝鮮通信使ウオーク 17年4月～5月

第7次朝鮮通信使ウオーク 19年4月～5月

第8次朝鮮通信使ウオーク 21年4月
※新型コロナ下、宣相圭会長ら韓国隊6人がソウルー釜山を踏破

第9次朝鮮通信使ウオーク 23年4月～5月

第10次朝鮮通信使ウオーク 25年3月～4月 最終回

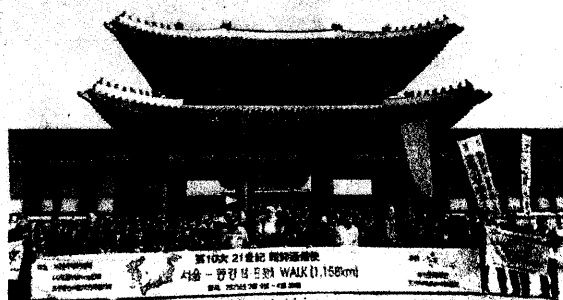
※江戸時代の朝鮮通信使は計12回来日。うち第2次使節団は京都、第12次は対馬で国書交換して帰国。その他はすべてソウルー東京(江戸)間を往復。

江戸幕府に派遣 朝鮮使節団の軌跡を歩く

21世紀の通信使 ソウル→東京 最後の旅



- ①ソウルの景福宮を出発した「21世紀の朝鮮通信使 友情ウォーク」の参加者ら
- ②出発前に記念撮影
- ③友情ウォークに参加する金承南さん(いずれも9日、ソウルで(共同))



【ソウル＝共同】江戸時代に朝鮮王朝が日本に派遣した外交使節団「朝鮮通信使」の道のりをたどる「21世紀の朝鮮通信使 友情ウォーク」の日韓の参加者らが今月9日、ソウルから東京へ向けて出発した。イベントは2007年から隔年で行ってきたが、参加者の高齢化などを受け10回目の今回が最後となる。



朝鮮通信使は、江戸時代の1607～1811年に12回派遣された。日本側の主管団体の遠藤靖夫会長(82)「さいたま市緑区」は「あと2回残っているけれど、誰かが継いで12回を達成してほしい」と話した。一行は、朝鮮時代の王宮、景福宮で出発式を行った。途中で船やバス移動も

日韓架け橋 高齢化進み

交えつつ、徒歩での移動距離は千キロを超える。ゴールの東京・日比谷公園には4月30日に到着する予定だ。一部区間だけの参加者もあり、9日は約100人が歩いた。ソウルから博多まで参加予定の中沖愛子さん(57)「愛知県一宮市」は「(日韓は)植民地時代のことなど複雑な歴史があるが、一緒に歩いた仲間だという信頼関係を築きたい」と意気込んだ。韓国側の参加者、金廷炫さん(66)「ソウル市」は「朝鮮通信使に関する遺跡を見るのが楽しみだ。日本との友情が厚くなる機会になれば」と笑顔で語った。



東京新聞

中日新聞東京
東京都千代田区千代田二丁目
〒100-8505 電話 03-6411-1111

雨宮商事合同会社
141ビル
03-3342-0

紙面が
「相棒」育成
頼みの綱は



盲導犬の育成に必要な、子犬の引き取る負担が不足。啓発が行われている。

江戸時代に朝鮮王朝から派遣された外交使節団「朝鮮通信使」の足跡をたどる「21世紀の朝鮮通信使 友情ウォーク」の参加者38人が31日、日本最初の訪問地となる対馬市に入った。通信使の初来日から400年となった2007年から、日本ウオーキング協会(東京)や韓国体育振興会などが原則として2年に1度開催。日韓の参加者がソウルから東京まで船やバスも乗り継ぎながら移動し、現地の人たちと交流する予定。東京への到着は4月30日

通信使足跡たどり 対馬へ

日韓友情ウォーク 市長らが出迎え



対馬市内を歩く一行

江戸時代に朝鮮王朝が日本に派遣した外交使節団「朝鮮通信使」の足跡をたどる「21世紀の朝鮮通信使 友情ウォーク」の日本一行は、この日、韓国・釜山から船で対馬市を訪問。比田勝尚喜市長らの出迎えを受けた。韓国側の許可を受け、対馬市は「南緯(72)は、これからは『誠信交隣』の精神で、東京まで歩く」と述べ、日本側の遠藤靖夫隊長(82)は「ソウル・東京間が平和の道になるよう、日韓の若者たちの交流、取り組みに期待したい」と話した。東京への到着は4月30日

歩き育んだ日韓友好 これからも

「朝鮮通信使」足跡たどる催し 東京へ出発



大阪役所前で記念撮影をする日韓友情ウォークの参加者ら＝大阪市北区

歩いてたどるイベント。2007年に始まり、新型コロナウイルスで中止された期間を除き、隔年で催されてきた。今回の一行は3月9日に韓国・ソウルの景福宮を出発し、徒歩でおよそ20日間かけて釜山まで続断。船で日本に渡った。バスやフェリーで瀬戸内海沿岸のゆかりの地を巡り、大阪からは再び歩いて東京へ向かう。一部の日程だけ参加する人も多いが、日韓の計15人が全行程の踏破をめざす。その一人で、三重県鈴鹿市の延与恭子さん(76)は第1回の時にも全行程を歩いた。今回は「慶州や蔚山では桜が見頃できれいでした」と話す。ソウルに住む金洪烈さん(64)は風景を撮影し、動画投稿サイトで紹介する。韓国の歴史というところ、王辰倭乱(豊臣秀吉の朝鮮出兵)や植民地支配が頭に浮かびますが、通信使の足跡を確かめるうちに善隣友好の心が大切だと考えが変わってきた。(中野晃)

最後の通信使 日比谷公園に到着

加齢の高齢化を受け10回目の今回は最後となる。午後3時過ぎ、日比谷公園に参加者が姿を見せると、出迎えた友人ら約100人から拍手が上がり「お疲れさま」とねぎらった。参加者は互いに抱き合ったり涙を流したりした。3月9日に韓国・ソウルを出発。主催者によると日本側7人、韓国側9人の計16人が全行程を踏破した。徒歩で移動した距離は約1200キロ。船やバスも利用した。先頭で「旗隊」を掲げる旗手を務めた李敏さん(88)は「責任は重かったが無事にゴールできてよかった」と笑顔。10回目の参加で、今回全行程を踏破した三重県鈴鹿市の延与恭子さん(76)は「よく歩いた。仲を深めることができてよかった」と話した。日本側の遠藤靖夫会長(82)は「最初はマイナーな取り組みだったが、徐々に盛り上げることができた。日韓親善の役割を果たせたのではないかと振り返った。